

尾瀬ネットワーク通信

2001年7月31日 VOL.4, No.3(10) 尾瀬自然保護指導員ネットワーク

GWの尾瀬（至仏山山頂より 五月四日撮影）



◆平成十三年度の活動始まる◆

規制から早くも方向転換 入山者減で財団に企画運営委員会

尾瀬保護財団（以下・財団）が、尾瀬のオーバーユーズ（過剰入山）を規制してきた「尾瀬入山適正化検討委員会」に代えて、今夏から「企画運営委員会」を設け、山小屋の宿泊客を増やす方法などについて話し合うことを決めた。景気低迷で入山者が減り、宿泊客よりも日帰り客の割合が増えているため、「規制」から「誘客」へ方針を転換する。

六月十六日付の『朝日新聞』（群馬県版）は、このように報じています。

確かに尾瀬の入山者数は一九九六年の六万七五〇〇人をピークに、九七年は六万四三〇〇人、九八年は四万五五〇〇人、九九年は四万五八〇〇人、そして昨年は四万八四〇〇人と減少傾向にあります（環境省調べ）。しかし、九〇年から九五年までの六年間は五〇万人台で推移していました。九六、九七年の六〇万人を超える入山者数は、むしろ異常だったのです。

その背景には、好況に加えて、「百名山」ブームがあったのだと思います。つまり、ここ三年間の入山者減は、不景気と「需要の一巡」が作用していると考えられます。こうした背景を抜きにして、「六〇万人台の夢よう一度」と考えるのは甘い、と言えるのではないのでしょうか。

手元のスクラップを見ると、適正化検討委員会が「入山者を一日一万人に」との中間報告を出したのは九八年三月十六日。それからわずか三年で方向転換です。これでは保護財団の「保護」の意味が問われるのではないのでしょうか。

（高橋 喬）

今年度の主な活動計画

平成十三年度の活動が五月より本格的に始まりました。八月以降の活動計画を改めてご案内致します。ネットワークの活動は会員の自主的かつ積極的な参加によって成り立っています。年一回以上は活動に参加し、会員相互の親睦も図りましょう。

◎福島県側

会津バス添乗解説

第5回 9/22(土)～24(月)
第6回 10/6(土)～8(月)

第1回～第4回は実施済みです。なお、第3回(7/7)は入山者指導終了後に帝釈山・田代湿原において磯部幹事の指導の基に指導員研修会を実施しました。8名の指導員が参加。オサバグサとチングルマの群落は一見の価値あり。

活動内容

御池～沼山峠間の会津バスに乗り、バス内で入山者に尾瀬の自然や自然保護等について簡単な解説を行います。その他、ゴミ拾いや大江湿原・尾瀬沼・上田代・御池田代にて入山者に自然解説などを行います。

参加申込み連絡先

〒962-0402
須賀川市仁井田字大谷地 三七一

磯部義孝(担当幹事)

☎ 0248(76)4319

fax 0248(72)5865

宿泊先 檜枝岐村

民宿「ひのき屋」

☎ 0241(75)2115

各回の初日の夕方17時までに宿泊先にお集まり下さい。食事については特に指定がない限り、初日の夕食より最終日の朝食まで手配します。

◎群馬県側入山者指導

第2回 9/14(金)～16(日)

第1回は7月に実施済みです。会員各位の積極的な参加を歓迎致します。

活動内容

鳩待峠より入山し、山の鼻植物研究見本園や尾瀬ヶ原湿原で入山者に定点指導を行います。

参加申込み連絡先

〒379-0129
安中市下磯部二七二の四

山本誠剛(担当幹事)

☎・fax 027(385)5458

参加希望者は初日の宿泊先への到着時刻と夕食希望の有無をお知らせ下さい。

宿泊先 片品村戸倉

プチホテル「アップル」

☎ 0278(58)7052

◎至仏山東面登山道 実態調査(第5回)

日程 8/3(金)～5(日)

活動内容

8/4至仏山東面登山道

を山の鼻から登り、植生とコース状況を調査します。8/5鳩待峠から笠ヶ岳に登り、山頂周辺と片藤沼の植生を調査します。

宿泊先 片品村「一仙」

「鳩待山荘」

なお、既に参加申込みは締め切りました。

(担当幹事 永島 勲)

◎第2回尾瀬自然保護 指導員養成講座

日程 8/23(木)～26(日)

募集人員 十五名

応募資格 18歳以上で三泊四日の講座全日程を受講できる方。当ネットワークの指導員として活動に参加できる方。

講座内容 アヤメ平・尾瀬ヶ原・尾瀬沼・檜枝岐村にて尾瀬の自然・自然保護等の実地研修及び室内研修

参加費 35000円

宿泊先 片品村「一仙」

檜枝岐村

「わたすげ荘」

受講申込み連絡先

ネットワーク「事務局」
〒100-0014

東京都千代田区永田町

2-17-5-203

(株)SEC内

☎ 03(3581)0321

fax 03(3581)2178

締め切り7月31(火)

事務局長の尽力により「山と溪谷」及び「岳人」の七月号に養成講座開催の案内が掲載され、受講生を募集しています。また、初めての試みとして都内や高崎のスポーツ店等に指導員講座のチラシを置き、受講生の募集を行なっています。申込み状況によっては締切日は若干延長します。会員の知り合いの方で受講希望者がありましたら事務局まで一報を下さい。

(担当幹事 永島 勲)

(担当幹事 磯部義孝)

◆GWの至仏山◆ 入山状況について

今年の鳩待峠への道路開通は四月二十七日のGW直前であった。晴天の日を狙って五月四日に日帰りで調査入山しました。

(マイカーの状況)

午前八時前、戸倉の並木駐車場はガラガラであった。鳩待峠の有料駐車場は満車の車止めの手前から路上駐車車が溢れていた。その距離は約200m。峠の休憩所前の広場もマイカーで一杯。カラフルな服装の春スキヤーのグループが目立つ。アヤマ平方面に登る大勢のグループもいた。

(コースの状況)

登山届に記入して、八時四十分登山開始。積雪は1mほど。明るいブナ林の中を常に右手に至仏山の美しいスカイラインを見ながらの快適な雪上コースが続く。

他のスキーヤーと抜きつ抜かれつで高度を上げて行く。林相がブナからオシラビソに変わると小尾根の末端を右に回りこみ原見岩の下をトラバースする。左に僅かな登りで尾根を乗っ越すと西に笠ヶ岳と上州武尊山が大きく見えてきた。

水場付近の急登を一頑張りでおヤマザワ田代の平坦な雪原に出る。この辺りで積雪は1・5mほど。小至仏山へ続く稜線では谷川岳など上越国境の白い峰々が一望できた。休憩中のスキーヤーや下ってくる登山者が多くなってきた。

トレースは小至仏山頂へ登らず、展望テラス付近から南面の急斜面を大きくトラバースして至仏山との鞍部へ抜ける。さらに至仏山頂へは南斜面を横切り南東側より回り込むと山頂に飛び出す。

この時期のコースは夏道と異なりかつ積雪により視界も高いので、景色が新鮮に感じられる。入山者も多く、雪上のトレースと赤布

や樹木の赤ペンキによって、悪天候にならない限りコースを間違えることは少ないであろう。

(山頂の状況)

十一時四十五分、至仏山頂に到着。山頂の僅かな広場のみ雪が消え地面が露出していた。大勢のスキーヤーや登山者が昼食中であつた。その数おおよそ70名。尾瀬ヶ原や燧ヶ岳など360度の山岳展望にしばし疲れを忘れる。いつもながら



自然の造形美に感動する。この貴重な自然はいつまでも大切にしたいものである。山の鼻へ下る東斜面はどこどころで岩肌が露出していて、スキーヤーは大きく左へ迂回しながらシュプールを描いていた。昼食後、アイゼンをつけて快調に下山する。鳩待峠まで一時間二十五分。既に峠の車はほとんどなかった。

(問題点)

総じて入山者の装備・マナーは良かったが、次ぎの3点を問題点として取上げたい。
①鳩待峠付近の路上駐車。GW中も「マイカー規制」は必要である。
②雪の上に頭を出した矮小化した針葉樹のスキー板による踏み付け。
③山頂付近でのハイマツ帯への踏み込み。

(登山道閉鎖について)

残雪期の登山道閉鎖(鳩待峠→至仏山→山の鼻)は、植生の保護を主眼として平

成十年より毎年実施されています。今年も五月十一日(六月三〇日までの五十一日間、全面閉鎖された。残雪期の登山道閉鎖は今後も是非とも継続実施を望みたい。また、入山者には登山道閉鎖への理解と全面的な協力を頂きたいものです。写真(鳩待峠の駐車状況)(永島 勲)

◆原稿募集◆

皆さんの投稿をお待ちしております。原稿は事務局または永島宛お送り下さい。次回「秋季号」の発行は十月三十一日の予定です。

ワープロ・手書きいずれでも結構です。短書はハガキでもOKです。封書の場合「原稿」と朱書きして下さい。写真の掲載を希望され方は、できる限り「ネガ」でお願い致します。電子メールでの投稿も歓迎致します。左記のメールアドレスで受け付けています。
<http://www.inaga@maple.ocn.ne.jp>

ちよつといひ話

(その一)

このお話は、尾瀬保護財団のボランティアの方が実際に体験した内容です。同財団のご了解を頂いて、「第5回尾瀬ボランティア総会」資料から転載したものです。

『昨年の十月の初旬に沼山峠で活動していた時、バスから入山者とネットワークの人たちが降りてきて、その中に足の悪そうなお主人と付き添う奥様の一組がおり、お主人は尾瀬沼に向かつて、おぼつかない危ない足取りで登っていき、我々は心配しながら見送りました。奥様是我々のところに残って見守って見送り「主人は昨日まで腰痛で寝ており急に思い立って尾瀬に来ましたが、バスの中で若い人を見て元気づき登っていきましたが戻ってくるだろう」と言っていたら、やはり戻って

来ました。

そこにネットワークの女性の方がいて「せつかく来られたのだから御池に下って湿原をご案内します。」と下りのバスに乗って行かれました。こんなボランティアもいた。と思いました。』

(編集委員より)

ネットワークの活動は、私たちの気づかない所で注目されています。独り善がりを抑えて、相手の気持ちを汲んで入山者と共感するような活動を心掛けましょう。そして、一人でも多くの方に尾瀬の大切さを理解して頂きましょう。



昨秋のこの活動に対して、土浦市の方から御礼状が届いておりますので、ご紹介致します。

『前略 大変ご無沙汰を致し申し訳なく存じており

ます。

御池田代湿原にてはいろいろの親切を賜り大変よい旅の思い出となりました。心の糧として皆様の様な地味な活動に心をうたれる思いで一杯でした。

家内も私も高齢のため、尾瀬は無理と思っていました。が、仲間の親切心にほだされて参加した次第です。其の後私は腰の痛やら腸閉塞の難病にとりつかれ、ようやく今月十一日に退院することが出来ました。家内が筆不精のため写真のご送付がおそくなり恥ずかしく思っております。本当に有難うございました。

これからの事を思いますと自分の事だけで精一杯で恥じ入るばかりです。どうぞ、これからもご健康で、ご精進の程お祈り申し上げます。

不二』

また、今年五月の入山者指導の折りに同様な活動をした会員に、神戸の方から次のような御礼状を頂きましたので、併せてご紹介致します。

『尾瀬御池では言葉に表わせない位お世話になりました。して有難うございました。嬉しかったあの時の余韻を今かみしめながら、先ずは何よりお礼までと、したためて居ります。

尾瀬散策と云う散らしに引かれ参加致しましたものの前夜、登山に近い強行だという事を知り、正直とても戸惑いました。そして御親切なあなた様とお逢いする事が出来、本当に幸せでした。尾瀬のすべてを味わう事が出来た気持ちが致しました。美しい自然の景色と其れ以上に親身にお世話頂いたあなた様との嬉しかった出逢いが、主人共々いつ

までも忘れられない感動となつて、心の中に残っていると致します。本当に有難うございました。後程、写真が出来ましたら必ず送らせていただきます。

全くのボランティアであそこ迄献身的に人の為に尽くされて居られる方がいらつしやる、私共そのお陰で生かされているんだと、それが分かったとても良い旅でございました。

取り敢えず、お礼迄。』
(永島 勲)

尾瀬自然保護指導員
ネットワーク

〒100-0014

東京都千代田区永田町
二一七五—二〇三

(株) SEC内

電話 03 (3581) 0321

FAX 03 (3581) 2178

代表 高橋 喬

事務局長 椎名宏子

編集委員 永島 勲